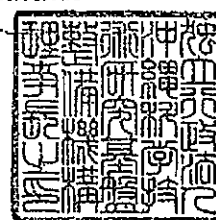




H19 沖縄 378 号  
平成19年8月13日

内閣府独立行政法人評価委員会  
委員長 大森 彌 殿

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構  
理事長 シドニー・ブレナ



独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構の役員退職について

標記について当機構の下記役員が退職いたしましたので、その退職手当に係る業績勘案率の算定をお願いいたします。

記

氏 名	■
役 職	理 事
在職期間	平成17年9月1日から平成19年4月13日

以上

## 前理事の業績について

### 1. 就任及び退任日

- 平成17年9月1日に独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構理事就任。
- 平成19年4月13日に退任。

### 2. 在任期間

19ヶ月13日

### 3. 職務

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構（以下「機構」という。）において、以下の事務を所掌。

平成17年9月～平成19年1月	総務部、施設企画グループ、研究事業部
平成19年2月～平成19年4月	総務部、施設企画グループ

### 4. 主たる業績

前理事は機構の事務（総務部、施設企画グループ、研究事業部（平成19年1月まで））を掌理する職にあつて、理事長のリーダーシップの下、各業務の円滑な遂行のために事務処理の効率化・合理化に努め所掌業務における積極的な指揮を通じ、次に挙げる業績を上げた。

#### ○総務業務

- 組織をできるだけスリム化し、経験を有する基幹職員を中心とした少数精鋭で業務を推進するために、即戦力となる人材の公募や、他機関からの出向者受入れ等、必要な人事配置を行った。
- 事務処理の迅速化・効率化が図られるように、総合業務システムを構築した。
- 財務管理の仕組みを構築するため、財務・経理上の規則・要領を定めるとともに、予算単位を設定しそれぞれに予算編成・執行・管理を行う仕組みを構築し、予算の効率的な執行を図る体制を整備した。
- ホームページに調達・入札情報を掲載することにより沖縄県外の業者の参入も含めた競争を促す等、業務経費の節減に努めた。
- 研究に関する報告を含む、平成17年度年次報告書、平成18年度年次報告書を作成した。

#### ○施設企画業務

- 旧白雲荘の改修工事を完成させ、恩納村キャンパスでの機構の最初の施設となるO I

STシーサイドハウスを開所させた。

- 沖縄県の条例に準じて恩納村キャンパス整備事業の環境影響評価を行った。
- 国道58号線バイパス計画と大学院大学アクセス道路の技術的調整及び恩納村キャンパス内の民有地の買収を実施した。
- 平成18年度には恩納村キャンパスにおいて造成工事を着工した。

○研究事業業務

- 研究施設の整備、研究設備の導入、ポスドク研究者の採用等を行い、研究グループの新規立ち上げを支援した。
- 平成17年度1件、平成18年度7件、合計8件の国際ワークショップの開催を支援した。
- 奈良先端科学技術大学院大学や琉球大学と協定を締結する等、連携大学院制度を活用し若手研究者の養成活動を推進した。
- 科学研究費補助金の指定機関の指定を受け、科学研究費補助金の獲得に努めた。

5. 在職時に受けた報酬等に対する業績による増減実績

平成17～19年度の間において役員の業績を考慮した手当の増減の実績はない。

6. 在職時の目的積立金の有無及び金額

無し

以上